

2022.9.25

発達障害とは何か

医療法人悠有会 鈴木クリニック
鈴木悠介

発達障害と聞いて

- 発達障害とは何でしょうか？
- 皆さんはどのようなことを思いつくでしょうか？

- 皆とうまくやれない
- みんなから遅れている
- 発達障害はADHDや自閉症や学習障害

- これらも間違っはいますが...

発達障害とは？

- 発達特性・個性が強く社会障害となる状態
- 病気というよりも一人一人のもつ特性
→ 治るものではなく成長・発達していくもの
- 重要なことは
 児に対する理解と必要な環境調整
 保護者や関係者とともに考えていくこと
 加えて、発達支援や薬物などの治療介入



うちの子は発達障害かも...

- なんでうちの子が...
 - 原因は何だろう...
 - 私の育て方がよくなかったのかしら...
 - どうしたらよいのだろう...
-
- 本当にうちの子が...
 - やっぱりそうなのかも...

発達障害なのかな

- ネットや本で色々調べる
 - 知り合いに聞いてみる
-
- それから発達支援のことを知り、市や幼稚園・学校に相談する
 - 心配が強ければ病院に相談
-
- 逆に胸に秘めている方もいる

発達障害は相談・受診しないといけないか

- 発達障害は社会障害の程度により、発達支援や内服が必要
- 病院の受診はケースバイケース
- 医療で行えること
 - 決して治すわけではない
 - 直接、児にできることはそれほどない
 - 間接的に、つまりサポートできることはいくつかある



医療で行えること

- 診断（見立て）や説明
- 知能検査や発達検査
- 家族支援
- 薬物治療
- 合併症の有無の検討・検査
- 診断書・意見書などの作成
- 他機関との連携（医療・福祉・教育）



発達障害の種類



私から見た発達障害のポイント

- ・ まずは発達障害の理解
- ・ 併存してくる二次障害について これが一番の問題
- ・ その対応策として「自尊心」をつける

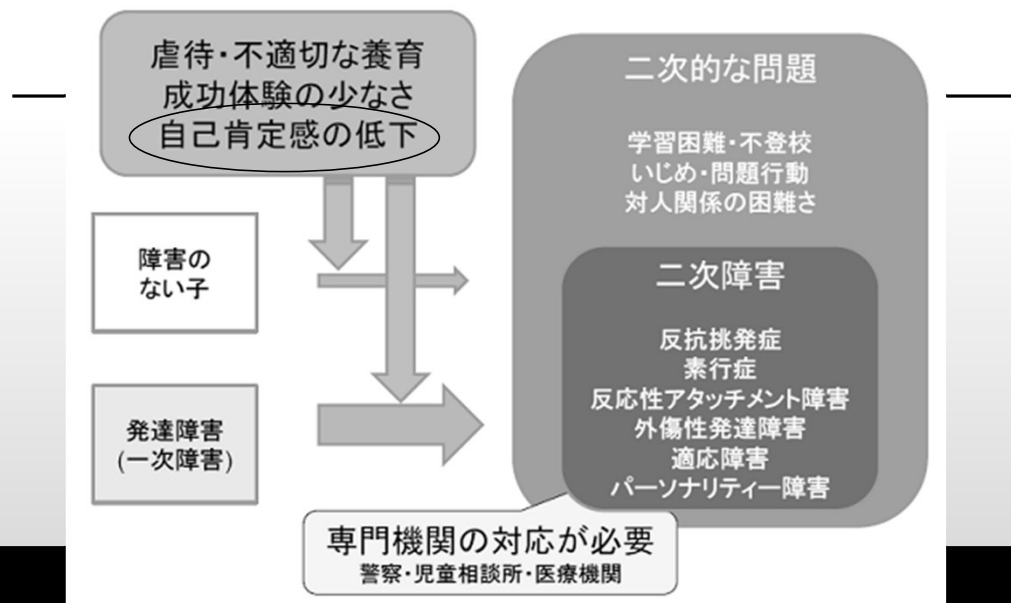


二次障害とは？

- 発達特性が強く、環境に適応できず、著しい社会障害が生じた状態
(不登校やひきこもり、家庭内暴力)



発達障害と二次障害・二次的な問題



二次障害とは？

- 発達特性が強く、環境に適応できず、著しい社会障害が生じた状態
(不登校やひきこもり、家庭内暴力)

→これを防ぐために、発達相談外来を行っている
(児や親だけの問題ではなく、
生活や教育環境が重要)

自尊心とは？

- 自尊心・自己肯定感
- ⇒自分を大切に思うこと、自分を尊いと思うこと



「心の土台」

つまり

- 自尊心を育て、
- 心の土台を安定させ、
- 発達障害を理解したうえで環境調整を行う



発達障害はすぐに変わらないが、
二次障害を起こさないよう予防することが重要

成長・発達に伴う二次障害

- 不登校
- 精神疾患の合併

- 幼少期と違い、心をつなぎとめるためのお話・相談
- 居場所づくり

まとめ

- 発達障害は「障害者」ではなく「社会障害」になっていること
- 二次障害を知って予防することが重要
- 困ったときや悩ましいときは周囲の相談できる場所に相談



よく受診されるエピソード（1）

- 3歳 未就園 男子
- 「あまりしゃべらず、落ち着きがないなあ」と思っていた
- 3歳健診で指摘され、保健センターに通っていたが心配になり受診
- 児との関わりで母は疲労感が強く、児がかawaiiと思えなくなった
- 外来で何度かお話を聞き、まだ単語数語程度とのことで言語発達遅滞と診断
- 保健センターでの発達支援に加え、児を見てくれるデイケアなどの意見書を作成
- 母が児に直接関わる時間を減らし負担を軽減することで、児に対する気持ちのゆとりを作った

よく受診されるエピソード（2）

- 7歳 1年生 男子
- 幼稚園の頃はかなり活発な子と思っていた
- 夏休み前の二者面談で指摘され、病院に相談するよう言われ受診
- 授業中に周りに話しかけてしまうため、席を前の方にしたが授業に集中できない
毎日鉛筆や消しゴムをなくしてくる
- 外来で何度かお話を聞き、落ち着きのなさや不注意傾向があり注意欠如多動症（ADHD）と診断
- 支援級を利用するなど環境調整に加え、内服について相談
- 徐々に授業に興味が出て、一緒に授業に参加できるように促した

よく受診されるエピソード（3）

- 12歳 小6 女子
- だんだん授業内容がわからなくなり、登校渋りが始まった
- 母は帰ってきてから夜遅くまで勉強を教えていたが、集中が続き母も怒ることが増えた
- 何か発達面の問題があるのかとも思い受診
- 学習面に必要と思われる知能検査を相談し、母子ともに負担にならないような勉強量に設定するよう学校の先生と相談した
- 検査によりグレーゾーンの知的な問題があり、指導方法を工夫することで児も授業に集中できるようになった
- 気付かれづらい不注意さやグレーゾーンの知的な問題に着目し対応した

よく受診されるエピソード（４）

- 14歳 中学2年 女子
- 朝起きられず、頭痛がひどくなり不登校になった
- 両親は精神的なものかと思ったが、学校から受診を促され受診
- 児は起きると頭痛があるため寝坊するようになり、昼頃に起きるとだんだん元気になるが、途中から学校に行けないという状況でした
- 母児ともに話を聞き、血圧測定や問診から起立性調節障害疑いであった
- 総合病院で精密検査を行い、内服を処方され、数か月から半年くらいで改善傾向になり朝から登校できるようになった
- 母に病気とストレスによる影響を伝え児への過干渉を減らし見守るよう促した

まとめ

- 発達障害は「障害者」ではなく「社会障害」になっていること
- 二次障害を知って予防することが重要
- 困ったときや悩ましいときは周囲の相談できる場所に相談

→ まずは相談してみてください

